



2. 科目履修上の注意

全学共通科目について

「全学共通科目」は、全学部で共通に開講される科目であり、「人間力向上」「語学教育」「総合的教養」の各分野の科目によって構成されます。これらを通じて、主に勤儉誠実の信念と共生き（ともいき）の理念に基づく人間力の向上を図るとともに、総合的教養を身につけます。

(1) 「人間力向上」の分野は、「共生」「健康・スポーツ」「キャリア」に区分されます。

- ① 「共生」では、「共生人間論Ⅰ(ブグダと法然)」(自校教育を含む)「共生人間論Ⅱ」(Ⅰ・Ⅱは必修)、「共生人間論実習」(経営学部必修)を開講し、仏教の立場から「共生き」について考察します。これらを通じて、勤儉誠実、共生きなどの態度を身につけます。
- ② 「健康・スポーツ」では、「健康と運動」のほか、「スポーツ」の実技授業として、バドミントン、テニス、バスケットボール、バレーボールなどの種目を開講します。これらを通じて、健康づくりの習慣や、自己管理能力、チームワークなどの態度を身につけます。
- ③ 「キャリア」では、「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」(Ⅰ・Ⅱは必修)、「キャリアサポートⅠ」「キャリアサポートⅡ」「キャリアサポートⅢ」を1年次から3年次まで継続的・体系的に開講します。また、3年次には「キャリア実践研究」「キャリア実務演習」を開講し、これらを通じて、コミュニケーション・スキル、論理的思考力、専門的職業人としての倫理・使命感・責任感を身につけます。

(2) 「語学教育」の分野は、「外国語」「日本語」に区分されます。

- ① 「外国語」では、「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」「総合英語Ⅲ」(Ⅰ・Ⅱは必修)、「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」(Ⅰ・Ⅱは必修)、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」、「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」、「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」、「英語リーディングⅠ」「英語リーディングⅡ」「英語リーディングⅢ」「英語ライティング」「英語ディスカッション」を開講します。これらを通じて、外国語を的確に読み、書き、聞き、話す技能(コミュニケーション・スキル)を身につけます。
- ② 「日本語」では、「日本語表現法 A(音声)」「日本語表現法 B(文章)」を開講します。これらを通じて、日本語を的確に読み、書き、聞き、話す技能(コミュニケーション・スキル)を身につけます。

(3) 「総合的教養」の分野は、「歴史・文化」「情報」「人文」「社会」「自然・環境」に区分されます。

- ① 「歴史・文化」では、「日本の歴史」「世界の歴史」「異文化理解」「日本文化論」「庶民生活の文化」を開講します。これらを通じて、幅広い総合的教養を身につけるとともに、日本と世界の歴史、様々な文化について幅広く理解します。また、「日本の文化」の実技授業として、書道、茶道、華道、舞踊、陶芸を開講し、日本の伝統文化について学びます。
- ② 「情報」では、「情報リテラシーA」(情報セキュリティを含む)「情報リテラシーB」を開講し、情報通信技術を用いて、多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用する技能を身につけます。
- ③ 「人文」では、「哲学の基礎」「倫理学の基礎」「心のメカニズム」「日本の文学」「外国の文学」を開講し、幅広い総合的教養を身につけるとともに、思想、文学などについて幅広く理

解します。

- ④「社会」では、「憲法と基本権」「社会生活と法」「暮らしと経済」「市民生活と政治」「国際事情」「社会福祉学の基礎」「現代社会と生活A」（ジェンダー論を含む）「現代社会と生活B」を開講します。これらを通じて、幅広い総合的教養を身につけるとともに、社会と人間のかかわりを総合的に理解します。
- ⑤「自然・環境」では、「生活と環境A」「生活と環境B」「自然と環境」「生命の科学」「生活と化学」「数の世界」「人類とエネルギー」を開講します。これらを通じて、幅広い総合的教養を身につけるとともに、自然・環境と人間のかかわりを総合的に理解します。

有資格者の単位認定について

下記に掲げる資格を有する学生は、証明書を持参の上、履修登録開始日から履修登録訂正最終日(16:00)までに教務課へ申し出てください。審議を経て、下記に準じた単位が認定されます。

授業科目名	単位数	認定基準
総合英語Ⅰ／総合英語Ⅱ／総合英語Ⅲ／ 英会話Ⅰ／英会話Ⅱ／英会話Ⅲ	2	実用英語技能検定試験 2 級 TOEFL 450 点以上 520 点未満 TOEIC 520 点以上 640 点未満
	4	実用英語技能検定試験準 1 級 TOEFL 520 点以上 550 点未満 TOEIC 640 点以上 810 点未満
	6	実用英語技能検定試験 1 級 TOEFL 550 点以上 TOEIC 810 点以上
中国語Ⅰ／中国語Ⅱ	2	中国語検定試験 3 級以上
韓国語Ⅰ／韓国語Ⅱ	2	韓国語能力試験 3 級以上
フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ	2	実用フランス語技能検定試験 3 級以上

- 注 1. この制度の運用は内規により行います。
2. すでに単位認定された科目についての申請は認めません。

人文学科科目について

基礎演習

基礎演習は、1年次に基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱを、2年次に基礎演習Ⅲ・基礎演習Ⅳを学習するように構成されています。大学での学習に必要な基礎的内容を学習する必修科目です。本学の理念である共生の精神を基盤とし、新たな文化を創出し、世界へ発信できる人材を育成するために必要な、さまざまな学習スキルを習得するための基本的な学びを展開していきます。20名前後で編成されるゼミが学習の基本単位です。

基礎演習Ⅰでは、4年間の大学生活の基礎を学ぶとともに、今後どのようなコースの勉強を中心にしていくのかをじっくり担当教員とともに考えます。大学生活の基礎としては、本学名古屋キャンパスにどのような施設があるのかに始まり、大学での勉強の仕方、特に、レポートや論文の書き方、情報検索、口頭発表の方法などについて基本を学習します。また、コースの選択については、4つのコースの紹介がありますので、じっくり考えて選択をしてください。また、卒業後の進路についても説明会を開催しますので、コース選択と関連して将来の進路・キャリアについてもじっくり考えていただきます。

基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰで身に付けたことを基礎とし、文書作成、情報検索、口頭発表などについてさらに深く学んでいきます。また、2年次に行われる専門ゼミの選択のために各専門ゼミの紹介などもあります。なお、基礎演習ⅠおよびⅡでは、少人数での学習のほかに1年生全員が一つの教室に入って学習するという機会もあります。

基礎演習Ⅲ・基礎演習Ⅳでは、3年次からの専門演習に対する導入を行います。具体的な課題は担当教員によって異なるので、詳細は「授業概要」を参照して下さい。

専門演習

専門演習は、各教員の専門分野を中心に指導を受け、各自の興味のある課題について調査・研究し、ゼミで発表する過程を通じて卒業研究へと発展させていく、重要な必修科目です。

人文学科の教員がそれぞれの専門分野を中心に指導します。「アナウンス・メディア表現」「創作文芸」「マンガ・映像」「言語・文化」の4つのコースのうちで自分が中心に学びたいコースが明確な人は、専門性を追求するためにそのコースの教員のゼミ（専門演習の授業）を選択するといいいでしょう。他方オープン履修ですので、カリキュラムの特徴を生かして、さまざまなコースの授業を履修することも可能です。

原則として各ゼミ15名以下で編成します。ゼミを自由に選択できますが、専門演習Ⅰ・Ⅱ（3年次）・専門演習Ⅲ・Ⅳ（4年次）は、原則として同じゼミに所属してください。

その他の注意事項

出席、試験方法、評価方法などは科目担当者によって異なる場合があります。「授業概要」に記載されていますが、わからないときには必ず教務課または科目担当者に相談してください。